

◆ 2022 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：黒目川の景観を考える会

25A-22

代表者：代表 小林 一己

URL :

1. 活動が必要とされた状況



2006 年以降、黒目川河畔の公有地に植樹したサクラ等の河畔林が成長し、メンテナンスが必要となったが、植樹した世代が高齢化し、担い手不足となった。そこで、2021 年度にメンテナンス研修会を 4 回開催した。4 回の研修会中、実習は 1 回で、技術を身につけることは難しいことが判明。2022 年度も剪定技術・技能取得をめざし、「木を育てる研修会」を開催した。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2022 年度は、実習重視で開催したが、「グリーンインフラ」講座の希望があり、4 回中、実習は 2 回となった。

① 9 月 25 日参加 7 人、第 1 回木を育てる研修会「グリーンインフラ」講師：木山政孝工事部長（泉翠株）

山林の崩落は、鉄とコンクリートで抑えるのではなく、針葉樹と広葉樹を混交させ、臨床植物を育成し、地面の保水力向上で斜面崩落を抑制する樹木による治山治水が大事。都市に木陰を増やし、夏の地温上昇を抑えるなど、グリーンインフラが、国土作りの指針となっていることを学ぶ。

② 10 月 16 日参加 16 人、第 2 回研修会 講師：千田稔氏（泉翠株）、木を育てる「自然風剪定」技術を本格的に学ぶ。

③ 11 月 3 日参加 10 人 第 3 回実習

④ 12 月 4 日参加 8 人 第 4 回実習

黒目川水道橋ミニパークにて、講師：千田稔氏（泉翠株）。

黒目川河畔林のサクラを題材に「自然風剪定」を実習。切る枝、残す枝の「選定」に時間をかけた。参加者で意見を出し合い剪定する。講師はそれを聞き、問題ある場合だけアドバイスする方式で、剪定を進めた。



作業を通行人にもアピール

3. 活動の成果

第 1 回座学研修会で、2005 年に朝霞市内で測定した「クールアイランド調査」から、樹木が町の気温上昇を抑えており、緑の役割・グリーンインフラ効果を確認した。

第 2 回座学研修会で、「木を育てる剪定」を学び、実習に備え、第 3 回・第 4 回実習研修で、黒目川河畔に植樹した八重桜 5 本を、2 グループに分かれ剪定した。黒目川遊歩道に面した並木は、枝が伸び放題で混みあい、樹皮を痛めていた。遊歩道通行の支障枝、重複枝を捜し、どれを切るか残すかグループ討議した。

4. 今後に残された課題

のべ参加者 17 人中、70 代以上が 9 人と高齢者が多かった。退職後の活動希望者多く、次世代への引き継ぎが弱い。今後は学んだことを、黒目川河畔林メンテナンスに生かしながら、河川環境活動参加の高校・大学生など、若い世代の参加を促す。

黒目川河畔の剪定作業は、朝霞市内の斜面林を管理しているあさか環境市民会議に協力を仰いでいる。同会も高齢化が進み、若返りが求められている。